



# 北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校  
学校だより No9  
文責 芹川博文  
6月7日(金)

「北中をこんな学校にしたい」の思いと「素朴な疑問」が出せる空気  
～ 全員が考え、話し合い、意見を出し合う生徒総会の様子から ～



準備から本番までやり抜いた執行部



途中、何度も話し合い議論する姿



意見をまとめて発表する生徒

「すごいなあと思いました。なかなかですよ。こんな生徒総会は。」 教務の宮崎 幸博先生の、講評での言葉です。「他人事」でなく全員が「自分事」として考え、途中何度も小グループで話し合い、そこで出た意見を発表する生徒たちの姿を見てのことでした。

私自身、北中での初めての生徒総会、「どんな総会なのだろう」とわくわくした思いで体育館に入りました。大人の総会とも重なりますが、総会の「空気」は2つに別れます。形式を重視した「淡々とした総会」か、1年間の方向を決める「思いのある総会」。今回は、まさに後者でした。その「真剣な空気」に感動しました。

そこには様々な工夫（しかけ）がありました。各委員会は年間計画を読み上げません。事前に資料が配布されており、各学級で読み込み質問や意見を集約して臨みました。総会の場で「ただ聞いている時間」がほぼなく、発表したり意見を出し合ったりする「考え行動する時間」がほとんどでした。事前の丁寧な準備が、当日の空気をつくっていました。「段取り八分」という言葉を思い出しました。

また、1年生の伸び伸びと発表する姿も光りました。素朴な疑問や素直な思いが多く出されました。それは1年生の積極性はもちろんですが、同時に、自由に意見が言える空気をつくっている2、3年生の優しさ、寛容さも大きいと感じました。

思わず「なぜ、こんなに真剣なんですか」という私の問いに、幸博先生から、「去年も、これまでも、総会で決まったことが、生活に繋がると経験して分かっているからかもしれません」との言葉が返ってきました。これまで先輩たちが大切にしてきた流れを受け継ぎ、新しい北中をつくっています。

## 初めての中間テスト

～ 各学年に広がる真剣な空気 ～

右の写真は、朝の教室で真剣にテスト勉強をする1年生の姿です。彼らにとって初めての定期テスト。緊張と意気込みが伝わってきました。



職員室では、学習記録を見ながら、こんな会話も聞こえてきます。「2日間で家庭学習9時間以上ですよ。」「ちょっと心配ですね。」「睡眠時間もある程度取らないと・・・。」

「一日の稽古を鍛とし、千日の稽古を錬という。中学三か年に培われる菊心魂こそ北中生徒の指標である。」テスト勉強を通して学力をつけることはもちろんですが、その過程や結果を通して、粘り強く立ち向かう心を磨いてほしいと願います。ただ、睡眠時間も確保しながら。

## 朝型のススメ

～ テスト前は特に効果発揮!? ～

わたしは完全な朝型です。中学生当時、部活動（柔道）を終えて帰って夕飯を食べる頃は、箸を持ったまま寝るほどの状態。これじゃいかんと思い、兄の影響もあり、朝方生活が始まりました。朝方の良い点は・・・

・疲れが取れている ・静か ・時間が限られている緊張感がある ・テスト前は、覚えてそのまま学校に行ける etc.

一方、リスクもあります。寝過ごすことです。何度も失敗しながら、目覚ましの場所を工夫したり、顔を洗うようにしたりしたものです。

これからも続く家庭学習。自分に合った勉強法を試しながら極めることが、大きな効果を生むかもしれません。

